

2015年3月3日

労働金庫連合会

～ 大きく広がる支援の輪 ～
労働金庫連合会 創立 60 周年記念 復興支援事業
ふくしま被災地まち物語 東京 7 DAYS
いよいよ 3 月 7 日スタート！！

東日本大震災から 4 年、被災地東北の昔話や被災体験の紙芝居、ミニライブやトークショーなどを通じて福島のことを学び、震災を風化させないためのイベント「ふくしま被災地まち物語 東京 7 DAYS」が 3 月 7 日（土）から労働金庫会館で開催されます。

本イベントを主催する「まち物語制作委員会」は、震災直後から「東北まち物語紙芝居化 100 本プロジェクト」を立ち上げ、被災地東北の昔話や被災体験の話を紙芝居にして発信し続けています。

労働金庫連合会は、創立 60 周年記念事業の一環として、東京初開催の本イベントを支援しており、イベント会場の提供だけに留まらず、多くの職員がボランティアスタッフとして運営協力する予定です。

報道各社のご協力により、被災者支援・復興支援の輪は大きな広がりを見せており、紙芝居の語り手である福島の被災者を本イベントに招くために実施されたクラウドファンディングは、目標金額を大きく上回り 100 名近い方々をお招きできることになりました。

当日参加も可能ですので、より多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

労働金庫連合会は、本イベントからさらに大きく支援の輪が広がることを願い、引き続き被災地支援をはじめとした社会課題に地域・NPOなどの団体と連携して積極的に取り組んでいきます。

1. 開催日程 3月7・8日（土日）、14・15日（土日）
※詳しくは裏面をご参照ください。
2. 会場 労働金庫会館 9階（東京都千代田区神田駿河台 2-5-15）
3. 本件に関するお問合せ先 労働金庫連合会 総合企画部 担当：五十嵐・木内（Tel.03-3295-9332）



労働金庫連合会は、働く人のための福祉金融機関<ろうきん>の系統中央金融機関です。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-5-15 <http://www.rokinren.com/>

ふくしま被災地まち物語東京7DAYS イベントスケジュール

開場日時	特別公演	＜テーマ＞	
		上演される物語	主演団体・特別ゲスト
3/7(土) 12:00 ～21:30	1stDAY 相馬の日 14:00～16:30	＜海の復興を願う漁師たちの物語＞ 「つのみず伝説」 「命の次に大切なもの」 「ある漁師の7DAYS」	・NPO 法人グリーンアーク ・NPO 法人相馬はらがま朝市
	2ndDAY 新地の日 18:30～21:00	＜取り戻せ福島の幸せ(福幸)～日常の破綻からの心の復興＞ 「朝日館 女将の7DAYS」 「豆名月」	・NPO 法人浮船の里 ・相馬報徳社 ・東北お遍路プロジェクト
3/8(日) 10:00 ～18:00	3rdDAY 伊達・浪江の日 10:30～13:00	＜避難者を受け入れた町との共生＞ 「見えない雲の下で」 「眠り猫の独り言」 「生き物が消えたまちの物語」他	・吉原りえ氏 (フルート) ・太田光宏氏 (ギター) ・西原和子氏 (キーボード) 他
	4thDAY いわき湯本の日 15:00～17:30	＜女将たちは生きる ～いわき湯本温泉の再生と女将たちの力～＞ 「湯本温泉ゆかりのまち物語」 「湯本温泉の女将の震災後7日間の物語」他	
3/14(土) 12:00 ～21:30	5thDAY 大熊の日 14:00～16:30	＜あの日に帰りたい ～帰れないまち、故郷大熊をつなぐもの～＞ 「木の根坂の藤兵衛」 「凜として 寿欄会物語」 「原発はじまり物語」	・梶川純司氏 (篠笛、フルート) ・木下小夜子氏 (アニメーション作家)
	6thDAY いわきの日 18:30～21:00	＜地震・津波被災市民と原発被災者が共存するまち＞ 「星一物語」 「奇跡のピアノ物語」 「アクアマリン復興物語」	・ホールアース研究所 ・いわき市社会福祉協議会 ・みんぷく 他
3/15(日) 10:00 ～15:00	7thDAY 福島・広島の日 10:30～13:00	＜記憶と記録 ～福島7DAYS-ヒロシマ7DAYS＞ 「ヒロシマ7DAYS」 「原発作業員とその家族の7DAYS」他	・佐々木祐滋氏 ・小野美希氏 (テレビ-福島アナウンサー) ・おおくま紙芝居一座 他

1stDAY 一相馬の日

テーマ：海の復興を願う漁師たちの物語

2015年3月7日(土) 特別公演 14:00~16:30

14:00 オープニング、相馬市の紹介

司会：福馬晶子

紙芝居「津水神社 つのみず伝説」

相馬の海岸べりの丘の上に建つ津神社（通称つのみず神社）津波の名を持つ神社に伝わる防災意識継承の物語

読み手：菊地基文（清昭丸の船主）、愛澤伸一郎（相馬・消防団）

14:30 アニメ「命の次に大切なもの」

津波が押し寄せるとき、相馬の漁師たちは命の次に大切なものと信じる船を守るため、船を沖に出した。船を守り港に帰った漁師たちが見たものとは・・・

究極の選択を迫られた東日本大震災の被災者から、命の次に大切なものは何かについて考える。

15:00 証言「ある漁師の7DAYS ～命を問うた日々」

語り手：菊地基文（沖合底引き網漁船 清昭丸の船主）

震災の夜、新しい命を授かった漁師

その一方で多くの仲間の死に向かい合う漁師。

そこに起きた福島第一原発事故。

瓦礫に埋もれた人を救うか

生まれたばかりの命を救うために相馬の地を離れるか

究極の選択を迫られた漁師があの日、あの時を語る。



菊地基文



高橋永真

15:30 座談会「海の復興を願う漁師たち」

パネリスト：菊地基文（NPO 法人そうまグリーンアース代表）

高橋永真（相馬はらがま朝市クラブ理事長）

16:15 hacto ライブ「ガッツポーズ」

16:30 終演予定

特別ゲスト

hacto

東京にベースをおいて活動しているアーティスト。

東日本大震災の後、相馬のはらがま朝市で、毎月1回演奏を続けており、やさしいギターと透き通った歌声で被災者の心を慰めている。

また、島根の小学生と相馬の被災者を結び、花の交流を行っている。



主な出演者

NPO 法人 そうまグリーンアーク

代表 菊地基文

沖合底引き網漁船 清昭丸の船主。

津波により家を失い、放射能により漁業を思うようにできない。

そのジレンマの中、NPO 法人 そうまグリーンアークを立ち上げ、原子力発電所の要らない、市民共同発電所をつくり、自然エネルギーなどの地域への普及、節電・省エネルギーの促進を進めている。

また、相馬のアイデンティティを求め、どんこのつみれ汁を開発し、各方面で紹介することにより相馬の現状を全国で紹介している。

NPO 法人相馬はらがま朝市クラブ
理事長 高橋永真

水産加工会社「センシン食品」を
経営する、自称「さかなや」。

津波で工場と家が被災し、仮設住宅に暮らす。

また、再開した水産加工会社も、放射能の影響で漁業が抑制されているため、苦難を強いられている。

現在は、SNSにより相馬の実情を分かっていた上でのファンに支えられ、「おんつあまセット」という加工食品のセットを、通信販売等で販売をしている。

震災後「NPO 法人相馬はらがま朝市クラブ」を立ち上げ、朝市による住民の活気を戻す活動や、リヤカーで生活必需品などを販売し、お年寄りなどの見守り活動を行う。



2ndDAY 一新地の日

テーマ：取り戻せ福島の幸せ（福幸）～日常の破綻からの心の復興～

特別公演：2015年3月7日（土）18：30～21：00

東北の浜通りを襲った大津波。それは、そこに暮らす人々の日常が、いきなり暗転する出来事だった。その中で、懸命に生き、新しい世界を見出した人々の当時の状況や勇気ある前進を伺い、自分だったらどうするかを考える機会とする。そして、今ある「普通の」幸せとは何かについて考える。

司会 福馬晶子

18：30 オープニング

紙芝居「鹿狼山の手長明神」

読み手：浦壁周平

新地町にある鹿狼山に、手の長い神様が住んでいた。その神様は、白い狼と年とった鹿をいつもそばにおいてかわいがっていた。

18：40 新地町の紹介

18：50 紙芝居「豆名月」

読み手：村上哲夫

豆名月様の昔話にある「困ったときはお互い様」という気持ちを新地の人たち。200年の時を隔て今に生きる。復興が早かったのもお互い様精神の賜物だった。

19：10 紙芝居「朝日館 女将の7DAYS」

読み手 村上美保子

お客様を送り出し、新たなお客様のお出迎えの準備をする朝日館。そこに突如襲った大地震。女将たちが立ち寄ったのが、コンビニだった。扉をこじ開け、床に散乱するおにぎりを買い占めたおにぎりが、避難所で一つの奇跡を起こす。

19：30 トークショー「日常からの破たん
～心の復興～」

パネリスト

東北お遍路プロジェクト：村上美保子

NPO 法人浮船の里 理事長：久米静香

一般社団法人相馬報徳社事務局長 畠中正一

20：45 ～h a c t oライブ～

「小さな鐘」

21：00 終演予定



トークショーパネリスト

村上美保子（東北お遍路プロジェクト）

「社団法人 東北お遍路（こころの道）プロジェクト」は、東日本大震災により被害を受けた福島県から青森県までの沿岸地域に、慰霊・鎮魂のための巡礼地をつくり、民族や宗教を超えた多くの人に巡礼地をたどっていただくことで、千年先までこの震災を語り継ぎ、被災地に希望の種をまいて育て、復興促進の一助になるようにと活動しています。

2015年2月4日の「第三回東北お遍路（こころの道）フォーラム」において、青森県八戸市蕪島神社から福島県いわき市アクアマリンパークまでの53箇所の第一次巡礼ポイントが発表されました。

今後、候補の各ポイントを調査しながら、巡礼地創生委員会にて順次ポイントの追加をし、被災地のなりわいが活性化するように、広域的なネットワークづくりをおこなっていきます。

畠中正一（一般社団法人 相馬報徳社）

相馬報徳社は、二宮尊徳の高弟である相馬中村藩士斎藤高行が明治の初めに設立した報徳仕法を実践する団体です。

報徳仕法は、江戸時代末に相馬中村藩、小田原藩をはじめ、桜町領（真岡市二宮地区）烏山藩、谷田部藩、日光神領等、天明・天保の大飢饉からの農村の復興に大きな役割を果たしました。

今回の大震災と原発事故により相馬中村藩領の大部分が避難生活を余儀なくされ、現在もその状況に変わりはありません。

全国の報徳団体と日本アムウェイの協力を得て、相馬報徳社は活動を再開しました。地域の子供たちとのコミュニティを大切にして、震災復興支援の拠点として活動します。

久米静香（NPO 法人浮船の里）

浮船の里は、南相馬市小高区で暮らしてきた主婦三人が、2013年4月に立ち上げたNPO法人です。紅梅山浮舟城と言われた小高城にちなんで、いつしか浮船の里と呼ばれるようになった小高。この私達の故郷・小高は、福島第一原発から20km圏内に位置するため、人が住めない場所になっています。家があるのに、いつ住めるようになるかわからない。住めるようになって、商店や病院が戻ってこなければ生活はできない。放射能を恐れ、子ども達はここには戻ってこないだろうから、小高は年寄りだけの町になる。月日が経つ程に、人が住まなくなった家は荒れてゆく…。小高の人々は、今、そういう不安を抱えて生きています。でも、それでも、諦めずに前を向いて生きていきたい。ふる里・小高を、自分達の手で漕いでゆきたい。そういう思いを込めて、私達は、私達のつくったNPOを「浮船の里」と名付けました。



3rd DAY - 伊達・浪江の日

テーマ：避難者を受け入れた町との共生

2015年3月8日（日）特別公演 10:30～13:00

10:30 紙芝居&ミュージック

演奏：フルート吉原りえ、ギター太田光宏
紙芝居 浪江町の民話「米作と狐」

司会：加登 菜奈

10:50 紙芝居「さえずりが消えたまちの物語」

演奏：フルート吉原りえ、ギター太田光宏

11:10 トーク & アニメ

5年目に突入する避難生活。帰れない街にとって求められるのは避難先との共生。そんな中、浪江町の人々の避難先である福島県の桑折町・保原町の人々と立ち上げたのが「浪江まち物語つたえ隊」だった。避難者と避難者を受け入れた住民が共同し、復興に向け歩みを始めた。その取組を紹介する。

トークショー出演：小澤是寛（浪江まち物語つたえ隊）、北澤浩（桑折ふるさと民話の会）、いくまさ鉄平（まち物語制作委員会）

アニメーション「見えない雲の下で」※浪江町 避難の物語

紙芝居「命のおにぎり」上演

演奏：西原和子（キーボード）

コーラス「ボランティア音楽会」

12:30 紙芝居「眠り猫の独り言」上演

演奏：西原和子（キーボード）

コーラス「ボランティア音楽会」

13:00 クロージング



上演される物語について

見えない雲の下で

3月11日以降始まった避難生活。着のみ着のまま逃げた浪江町の故佐々木ヤス子さんが残した紀行文に基づいて描いた避難のドキュメンタリー



眠り猫の独り言

地震津波に加え原発事故で帰る事の出来なくなった浪江。置き去りにされた動物たちの目線で震災を伝える。

危険が迫る。その時、立ち上がったのは福島の仮設住宅に暮らす避難者だった。（ドキュメンタリー）

生き物が消えたまちの物語

自然豊かな桑折町では、様々な生き物が豊かな自然の中で共生していた。そんな中、起きた原発事故。多くの生き物が姿を消した。鳥の視点で振り返るポエム調の紙芝居。



命のおにぎり

2014年の新春、東北を襲った突然の大雪。豪雪に立ち往生する車。閉じ込められて3日、ドライバーに命の

特別ゲスト



吉原りえ
（フルート）

上野学園大学音楽学部器楽学科フルート専門卒業。フルートを青木明、遠藤剛史の各氏に師事。

2004年より新潟大倉ブナ林野外コンサートを、2007年よりフルートソロリサイタルを毎年開催。近年は東北大地震復興支援コンサートや施設慰問ボランティアコンサートなど、社会貢献活動にも精力的に取り組んでいる。ソロ、室内楽、スタジオなどで活躍中。



太田光宏
（ギター）

1990年、フォーク/ニューミュージックの歌伴としてプロ活動をスタート。その後、ブラック・コンテンポラリーの影響を大きく受けつつ、歌伴に特化する形で数々のセッションに参加。比較的地味なプレイながら、必ず歌を引き立てるフレーズと卓越したタイム感には定評があり、アンジェラ・アキ、諫山実生、石野真子、今井翼など多くのレコーディングクレジットで太田の名前を見ることが出来る。

映画「僕たちのプレイボール」主題歌制作をはじめ、TVアニメなど様々な分野で活躍している。



横浜・川崎を中心に沖縄音楽の演奏活動をするレオンバンドの一員として活躍。被災者支援のため震災直後から福島にかよう。

西原和子
（キーボード）

4th DAY- いわき湯本の日

テーマ：女将たちは生きる～いわき湯本温泉の再生と女将たちの力～

2015年3月8日(日) 特別公演 15:00～17:30

15:10

▼片寄平蔵物語

～踊り「常磐炭坑節」

読み：松本幸子・古川芳乃／抜き：長尾聖子／踊り：芸の虫：「芸の虫」江戸末期、いわき市四倉町大森の貧しい農家に生まれた平蔵は常磐炭田を発見 石炭発掘に燃えるような情熱を傾けた男の物語



15:25

▼野口雨情物語～歌「七つの子」「赤い靴」「雨降いお月」

読み：清水明美・佐藤美智子・仲澤シゲ子／歌：すすめの学校
青い目の人形 七つの子など数々の童

謡を生み出した詩人 野口雨情。波乱万丈の人生のひと時を湯本温泉で過ごした。

15:45

▼即興紙芝居でい談「湯本温泉のあの時と今」

3.11 あの時のいわき湯本では何が起こったのか。そして震災から4年女将たちの明日への想いを語ります。

16:15

フラ「フラガール～虹を」

フラダンス：真鍋あき子さん
<休憩>

組紙芝居一湯の華おかみ物語

●湯本温泉はじまり物語

～童謡フラ「シャボン玉」

読み：長尾聖子／抜き：古川芳乃
踊り：真鍋あき子

●いわき湯本温泉物語

●湯本温泉復興物語

～踊り「湯本小唄」

読み：里見郁子・佐藤明子・小山いずみ／踊り：芸の虫／浴衣の男：阿部頼繁

日本三大古泉のひとつである湯本温泉のはじまりから常磐炭坑時代そして東日本大震災と現在までを3つの紙芝居でつないだ組紙芝居 さまざまな困難を乗り越えてきたいわき湯本の女たちの物語

▼即興紙芝居でい談：湯本温泉の明日を考える

震災後、いわき湯本温泉の女将たちは今何を考え、未来に向けてどう行動するか語っていただきます。



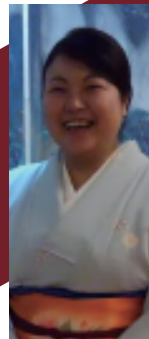
九頭見淑子



小井戸文恵



佐藤明子



小山いずみ



里見郁子



湯のまち、童謡のまち、紙芝居のまち いわき湯本にお越しください。



すすめの学校の皆さん

5th DAY- 大熊の日

特別ゲスト



梶川純司
(篠笛、フルート)

広島市出身。広島ジュニアオーケストラ指揮者を10年務め、89年より、若手演奏家の発掘、育成をめざし、「コンソート音楽集団」を主宰。99年より「朴風の家」を主宰。自然の中での人間の営み、ふるさと、環境保護をテーマに活動している。
演奏家としては1998年、ベネツェラの首都カラカス市、2008年、モンリオール市にそれぞれ招待を受け演奏している。現在、中国地方を中心にフルート・篠笛の演奏を精力的に行い、年間160回以上のコンサートをこなしている。

木下小夜子

(アニメーション作家)

東京生まれ。虫プロダクションを経て、1969年、(株)スタジオロータス入社。

ヒロシマをテーマにした『ピカドン』を制作。国際的に、アニメーション・メディアを基軸とした制作・開発・教育・振興等、幅広い事業・活動を展開し、その仕事はアニメーションのみならず、ドキュメンタリーやフィクションを含む映像分野全般に及ぶ。

2006年～2009年、国際アニメーションフィルム協会／ASIFA会長。現在、ASIFA副会長、ASIFA-JAPAN会長、広島国際アニメーションフェスティバルディレクター、日本アニメーション学会(JSAS)顧問、大阪芸術大学客員教授、女子美術大学理事、女子美術大学同窓会会長。



2015年3月14日(土) 特別公演 14:00～16:30

テーマ: あの日に戻りたい～帰れないまち、故郷大熊をつなぐもの～

原発事故、そして中間貯蔵施設に揺れる大熊町。それは高齢者にとって帰れないことを意味するに等しい。「原発事故を風化させてはいけない」「故郷を語り継がなければ」…、そんな故郷を奪われた人々がふるさとを継承するため立ち上げた“おおくま紙芝居一座”、その活動から“故郷”の意義を学ぶ。

14:00 オープニング

紙芝居大熊町の民話「木の根坂の藤兵衛」

読み手: 柘本翔太、引手: 柘本春美

14:30 アニメーションとトークショー

大熊町自閉症親の会「スマイル」の避難生活をつづった物語をアニメ化。モデルは自閉症という障害を乗り越え大学生として頑張る柘本翔太君。翔太君、自らが声優も務めた「悠稀くんの手紙」を上演後、制作の苦労話や避難の様子を聞く中で、帰れない故郷を大熊をどうつなぐか、後世につないでいくかについて考える。併せて、放射能被害という語り継ぎにくい物語をどう語り継ぐかヒロシマをアニメーションで表現した木下小夜子氏に聴く。

15:10 大熊町の子どもたちからのメッセージ

日本舞踊と紙芝居「凧として 寿蘭会物語」

寿蘭会司会担当 横川清子

厳しい避難生活の中、大熊町を後世につなぐため活動を続ける日本舞踊のグループ「寿蘭会」。小中高生がふるさと大熊町を思い踊ります。

帰れないまち故郷大熊をつなぐため頑張る子供たちの姿、ご覧ください。

上演後は大熊町の子供たちのビデオメッセージも披露。

読み手: 読み手: 高倉麻紀、鈴木昭弘、橘秀人 引き手: 三瓶美和

踊り: 横川成美、三瓶綾香、西村志保、高倉紀佳、岩元瑞希

山本三起子、鈴木美幸、横川美保子、橘和美、橘弘美

16:00 「原発はじまり物語」(紙芝居)

福島第一原発の1号機から4号機までがある大熊町。

1万2千人の小さな町の住民はどう原発を受け入れたのか、今の状況に対して何を思うかについて物語を通して考える。

読み手: 柘本翔太、柘本春美、横山和歌子

フィナーレ「相馬大熊音頭」総踊り

16:30 終演予定



がんばる大熊の子供たちの姿、ご覧ください。

6th DAY - いわきの日

テーマ：地震・津波被災市民と原発避難者が共存するまち

特別公演の内容について

豊間中学

奇跡のピアノ物語

いわき市の豊間中学校は卒業式が終わった日、東日本大震災の津波に襲われ体育館の中にあったピアノもがれきに埋まった。その後、自衛隊や地元ボランティアにより掘り出されたピアノ。卒業生や地域の人などがピアノを囲んで泣きながら校歌を歌い復興を誓った。(ドキュメンタリー)



アクアマリン復興物語

東日本大震災で壊滅的被害を受けた小名浜地区、そこにあった環境水族館アクアマリンふくしまも生き物の大半が命を落とした。そんな中、復興の象徴にならんと職員頑張りで、わずか126日、夏休み前に復興を果たした奇跡の水族館の物語。

星一（ほしはじめ）物語

幼い頃、右目を失明する。障害にもまげず20才のとき単身渡米、野口英世と出会って医療の大切さを痛感した。日本に帰り、医者のない山村にも薬屋をつくらせ人の命を助けたいと願い、全国3万店の販売網をもつ星製薬をつくる。



2015年3月14日（土）特別公演 18:30～21:00

原発事故によりいまだに12万7千人が避難し、うち県内に8万人が避難している福島。そのうち2万4千人がいわき市に避難している。同じ浜通りの人間として、避難者にどう向き合っていくか模索している現状を伝える。

18:30 オープニング 司会：志賀誠治

■紙芝居上演「星一物語」（いわき桜ロータリークラブ）

読み手：竹下真紀子、吉田佳代、矢吹知子、吉田恭子、石山美紀子

引き手：遠藤希和子

■いわき市の紹介

木田章一（いわきの森に親しむ会）

19:00 紙芝居「奇跡のピアノ物語」上演

読み手：佐久間静子

19:30 リレートーク「被災市民と原発避難者が共存するまち」

■登壇者

篠原洋貴（いわき市社会福祉協議会）

赤池孝行（みんぷく）

吉田恵美子（ザ・ピープル）

■進行

大武圭介（ホールアース研究所）

20:30 紙芝居「アクアマリン物語」

上演（アクアマリンふくしまボランティアの会）

読み手：大越チエ子

引き手：杉山めぐみ

21:00 クロージング

▽ホールアース研究所：日本の自然学校の草分け。富士山麓の本校をはじめ、全国4エリアに5つの活動拠点を有する。自然体験活動や環境教育、野外教育などの普及、啓発、調査研究、人材育成に関わる事業を通して、地域の文化や自然環境の保全につとめることで、持続可能な社会づくりに寄与している。

▽いわき市社会福祉協議会：旧14市町村合併による「いわき市」誕生を機に、各市町村社会福祉協議会組織を統合発足した。地域住民が主体となって地域社会における社会福祉の問題を解決し、その改善向上を図るための地域福祉活動を推進している。

▽みんぷく（特定非営利活動法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会）：2011年3月11日に発生した東日本大震災からの復興に向けて、地域コミュニティの再生や就労の問題、日々の暮らしに係

る多種多様な問題を解決していくことを目的に発足。避難生活を続けている仮設住宅にお住まいの方の支援、全国の支援したい方々との仲介、子ども支援、「いわき防災・減災ツアー」の運営、ボランティア受け入れなど、様々な支援活動を行っている。

▽ザ・ピープル：自分たちが住むまちの問題を自分たち自身が考え、その解決のため主体的に行動する、そうした住民の存在がこれからの地域を支える基盤であると考え、「住民主体のまちづくり」を進めると同時に、「地域」に対する意識を広げ、地球市民のひとりとして自分たちの果たすべき役割を担うことを目的に設立。いわき市内のNPO、企業等と協同して「いわきおてんとSUNプロジェクト」を推進している。



7th DAY - 福島・広島の日

グランドフィナーレ

ヒロシマの7日間、ふくしまの7日間 今だから演じます。

オープニング

10:30

佐々木祐滋ショートコンサート
朗読劇「HIROSHIMA 7 DAYS」

11:30 休憩

朗読劇「FUKUSHIMA 7 DAYS」

12:20 シンポジウム

& 紙芝居「よろこびのうた」
「記憶と記録～語り継ぐために」
▼読み手：谷本幸子
▼コーディネータ：小野美希
(テレビュー福島アナウンサー)
▼パネラー：おおくま紙芝居一座
朽本翔太 (大学1年)
寿欄会、横川成美 (高校生)
日本大学芸術学部演劇学科
佐々木愛 (大学1年生)
おおくま紙芝居一座
座長 朽本晴美
浪江まち物語つたえ隊
代表 小澤是寛
いわきの森に親しむ会
代表 松崎和敬
まち物語制作委員会
谷本幸子

グランドフィナーレ

大熊紙芝居一座
寿欄会による 相馬盆歌

ヒロシマ第九伝説
よろこびのうた

絵／いくまさ鉄平
分／勢良寛

70年前の8月6日、7年前の3月11日。人類史上初めての惨事を後世に残そうと被爆者が70年前の記憶を呼び起こし HIROSHIMA 7 DAYS を作りました。福島は原発作業員とその家族が5年前の記憶を呼び起こし FUKUSHIMA 7 DAYS を作りました。この二つの物語を明日に生きる東京の若者が演じます。

HIROSHIMA 7 DAYS

人類史上初めての原子爆弾が使われたヒロシマ。その日(8月6日)を語る物語は多い。しかし、その日から数日間をどう生き延びたかを語る物語は少ない。被爆70年の今年、当時を知る被爆者がその日から7日間、人々はどうか助け合い、どう行動したかをつづる物語。

脚本：谷本幸子、新澤孝重、新多智恵美 (被爆者)、いくまさ鉄平

FUKUSHIMA 7 DAYS 原発作業員と その家族の7 DAYS

大震災後の原発事故により避難を余儀なくされた母と子。父親は原発で働いていたが、その日はたまたま出張で東京にいた。原発の技術者としての使命感から大熊に向かう父、放射能を恐れ東京に逃げる母と子、そのすれ違いの物語。脚本：朽本正 (大熊町住民)、いくまさ鉄平

特別出演：佐々木祐滋

プロフィール：NPO法人SADAKO LEGACYの副代表理事。平和公園折り鶴の灯のモデルとなったサダコをモチーフにした楽曲を作り、世界各地で高い評価を得る。2009年からはソロ活動をスタートさせ、禎子の思いを綴った曲『I NOR I』でメジャーデビュー。



HIROSHIMA 7 DAYS FUKUSHIMA 7 DAYS 上演者

- ・塗堀一海 (広島出身)
学芸大学表現コミュニケーション専攻
- ・篠原悠香 (広島出身)
明治大学国際日本学部
- ・川野龍生 (広島出身)
日本大学芸術学部放送学科
- ・中井宏美 (千葉出身)
日本大学芸術学部演劇学科演技コース
- ・佐々木愛 (広島出身)
日本大学芸術学部演劇学科演技コース

特別出演：小野美希

プロフィール：テレビュー福島アナウンサー、2005年、大学卒業とともにNHK和歌山放送局の契約キャスターとなる。同局でキャスターを1年間務めた後に帰郷し、テレビユー福島に入社。夕方のニュース番組スイッチ担当

